

令和5年度北海道地域評議会報告

1. 開催日時・場所

令和6年2月22日（木）14時00分～16時20分

森林総合研究所北海道支所 大会議室（オンライン併用）

2. 評議会委員

武田義昭 委員（北海道森林管理局 森林整備部長）

笠井美青 委員（北海道大学大学院農学研究院 准教授）

田村泰司 委員（下川町長）

3. 出席者

北海道支所：支所長、産学官民連携推進調整監、地域研究監、チーム長（3名）※、

グループ長（4名、内3名※）、地域連携推進室長、総務課長

北海道育種場：場長、連絡調整課長※・係長※、育種課長、育種研究室長

北海道水源林整備事務所（オブザーバー）：所長※、次長※

※ オンライン参加

4. 評議会内容

(1) 令和5年度活動報告

森林総合研究所全体の組織・課題構成等を共通部分として紹介した後、北海道支所と林木育種センター北海道育種場の組織、課題構成、資金、連携・橋渡し状況、行事及び広報活動についてそれぞれ説明を行った。

(2) 北海道支所研究紹介

①「東日本のナラ枯れ被害域拡大をもたらしているカシノナガキクイムシの由来」

②「ナラ枯れ後の森林はどうなるか」

(3) 北海道育種場研究紹介

「核DNA分析と黄葉特性に基づくグイマツの集団構造の解明」

5. 評議会委員からのコメント・助言

・森林管理局の国有林の管理経営は公益重視で進めているが、木材生産・安定供給も重要な観点である。事業を行っている関係で目先の結果を求める発想になりがちだが、森林総合研究所には基礎的な研究や応用の効く研究を今後も続けていただきたい。

・北海道は日本の中で最も気候変動の影響を受けると考えられる地域であり、DNA分析から得られる知見を活かし、これから変わっていく気候に対してどのように森林を管理していくのかを研究することが今後重要になると感じた。

- ・下川町の町有林は循環型の森林経営を町の中心施策として行っており、これからも地域を中心に川上から川下までつなげて進めていくことを考えているので、今後も指導や協力をお願いしたい。